２０１９年（平成３１年）３月２３日　土曜日

デーリー東北　１５面　掲載

センバツきょう開幕

光星ナイン、開会式リハ

第91回選抜高校野球大会は23日、兵庫県西宮市の甲子園球場で開幕する。12日間の日程で、全国の精鋭32校が、春の日本一を目指してしのぎを削る。東北地区代表として出場する八学光星は、東北勢初の優勝とともに、平成最後のセンバツ王座を目指す。22日は甲子園で開会式のリハーサルが行われ、光星ナインも参加した。

入場行進は音楽に合わせて本番さながらに行われ、選手たちは改めて気合が入った様子。掛け声の担当を務めるという外野手の畑垣聖は「たくさんの観客の前で、行進や試合をするのが楽しみ。全力で声を出したい」と本番を心待ちにする。

先頭でプラカードを持つマネジャーの市沢早結希さんも「甲子園のグラウンドに入るのは貴重な経験。緊張するけど、楽しく歩きたい」と笑顔を見せた。

開会式は23日午前9時に始まり、前回優勝の大阪桐蔭（今大会は不出場）、準優勝の智弁和歌山（和歌山）の後、南から順に登場。光星は31番目に行進する。選手宣誓は、広陵の秋山功太郎主将が務める。終了後は呉（広島）―市和歌山（和歌山）など1回戦計3試合が行われる。（里村静）

プラカードを掲げるマネジャーの市沢早結希さんを先頭に、入場行進の練習をする八学光星ナイン＝22日、甲子園

打撃中心に1時間半練習

22日の甲子園球場での開会式リハーサル後、八学光星ナインは神戸市の神戸弘陵高グラウンドに移動し、約1時間半の練習に汗を流した。

この日、選手たちはランニングやキャッチボールで体を温めた後、打撃を中心に練習を実施。打撃投手やバッティングマシンを相手に一球一球フォームを確かめながらバットを振った。投手陣は本格的な投球練習は行わず、体幹トレーニングで調整した。

大阪入りして以降、思い通りのプレーができていなかったという伊藤大将も「21日の練習試合から良くなってきた」と調子が上向きの様子。「チームみんなでここまで来た。本番は張り切ってプレーしたい」と闘志をみなぎらせていた。（里村静）

打撃練習に励む八学光星ナイン＝22日、神戸弘陵高グラウンド

デーリー東北新聞社提供